茶話記六

特
ル呂3
1789
6止

ル3
1789
6

東海道名所記六

山科より京四条
三条迄

すて山科まつ。家も遠分わりたるつゝそゆ
ゆ。ゆ。ゆ。

早くつれの湯わり。世の人また男をとりそい
ふさこもろうふ。母をもつくこふ。湯くよ。
釈乃ありにもあらしり形の中かれども。みの
されつる。盥踊よりひやうしい一寸乃あふ
神流とそう。スハ一朝乃つるそう人とそう。
鍬乃ぬ利はんたてまたのそうそと
うしさ。れと退部せ三盃のりわ引すう。
背とはうぞうたてす屋。たうさい男形り。
うな人屑すで。中く釈のうあ。子形なすいう
じ。神人乃成賊ありとうんだ人うを見とそう
あ。て乃よゆ。そぬ中まみうの氏神しい
て。うんらやとうりの。寺つ和。地獄宰人

とうふ山半とうあり
踊場の水とうあゆしぎ神明乃社山
のうはあり。こ当氏世乃人うを五臣とうす。うの
み星源るひうがの。えるよ種の縁よりくぐ
里のしつ叶よ。天照屋根。ちを。申安。鈿女。玉屋乃
五臣。西とうそて。うりれくしぬ。八国と中うあ
しつ半也。中氏こ乃不は五臣氏勧信こ
より。初かいおま金詞ありうあ。人ういをうあ
うんじやしすの
松坂とあてたうう。南海寺思言吉田。ま
うはうりあうつこうそら系二系乃城を
栗田口　しつ栗田乃実日出乃一不れば氏

迫名と栗田口とつゞく。町の名ちなみよ。張屋の橋
なりて名物なり。楊柳いみな柳なれども。ことゝよく
河内国の玉越の里ゞ楊柳いつくりて国ゝ
所。この橋やゝ。毎年ゝ
柳所泳中もとゝ。言ゝ事ゝ事ゝ同名ゝ
それも。日をいまゞ毎ゝ。今ゝ所ゝ毎ゝ。
言ゝこ迫なわゝ。りゝ也ゝ。ゝ。三条通
とゝ町人わゝ
ちのゝ人ゝ所のゝ。山のゝ。ゝ将軍塚わり。
こゝ也ゝいゝ。極楽寺の寺。長谷の寺。
山ゝ。ゝ。ゝ。

山京氏初めて世をとりもち八人の士人ぶしとはうりて。
狭の国ぶうぶ氏を世をとりもちやなりて。
上将軍の官とぶ世。天子をづく祝しのりい。
ぶく山神と他ものうすしとられ。ちうく寺
議とりもちせしものりい。ゆきて家とつもちまて
ぶ。ぶ生てりこめてぶ京内人ひりとりて。今よ
りなりのあり。平氏の大相国清盛入ぶ。山京
とうて福原の京氏初めて生ものぶくか
をりうあめり生りうとや
次よみたの方い三申の祠わり。伝教大師の山作
あり。庚申の日。き賜わりゆきぶ。楽の法中
生かいの庚申の日い。寝ぬ来わりうあ彩ふ。

遠家の祝うい。人の力のかの中よ。郵稿壹拾壹編入之
て三戸ぬ出わり。庚申ぬ来はりて。人の暗
うわりぐ。三戸出ひうにうりぬりて。人ぬ
と天帝よりもりて。冥とうるキわりゆ。
この世ぶうはのりもて。庚申の夜い寝
ぬりのりうりて。それ人ぶうよりりうり
りうぶ。ぶんや三戸出とや。天帝ぶんで出りゆ
キはりて。人は冥ぬわるぶはうんやぶうい出
りはうぶ。天帝ぶんで。人の義ともうり
ぶうんや。わり祝よい。庚申の夜よりぬうよりい。
魂の主よりうかりて。成長てりぶうりと
いり。磨ぬ祝りやぶ。仏あよい。人の人体寝よ

とうてきり。六寸猿猴といふ神一わり。今ゝは
猿どゝ人まゝ。三尺出るすぐゝて。これ乃猿
と申して庚申乃神ゝなり生てりとます人
も多ゞり。ちゞく神といふゞ。乃ゞ。きうゞゝといふ
人乃ゞ。此ハ新乃ゝ神ゝといふりの。ゞ三申ゝ伊
の生ゞ。改家乃郭。変ゞ。ゞゞゞりまて員
生ゝとつひとゝゝし。百樂ゞ一燈。このゝうゝき
わ神ゞ申ゝよひひとせこゝの外ゝんゞゝゝり。鶏ゞき
乃ゝらも信ゞゝゝれゝも。言祝ハ乃ゝ神ゝを
神仏もらゝ乃ゞゝ。猿乃かゝとゝのゝ人いゝ
新重ゝ猿ゝりゝゝわゝん

石乃ゝ人ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝゝゝ

山乃ち元一同より勝ごろ。その法然系乃戸なとり
わたり。笑養川は流れ。ぜとそ。祇園の大神人とと
らい。甲冑と号しその物三百ほ絵うてをとをと
るとやえうこうど。物部氏像寛名。上人此ごろ○と塗
ぬと。わは海ぶれて。あこの乃ニる流うくしひる。
ちあたちけてみ言ひ人とせさうるぜと祇園社
しうじせんるさ水茎みて沸骨と名ういま
ちは書外とて。大炊川まうり。はは海わう不う
そぐちとのてくく中でなるおくく別まよりあ
乃是。言飛とちの不乃堰うてえりとそのら
ゆ。持中ひ中ちて。ぜるととあけうそしば
上人乃骨ゆり。色ぐそちはて。まゆ乃名所る

とて今よりこ社わりりぬく比大若とと上人陸地北の
地ぬれど。信は寺成ぬて。知恩院と号は浄くよ
壇間して。あうるる昊池うてれうそまん
その南ハ八坂乃郷。貞観十年よ。尾張乃津鳴此
祇園をとうのまり。南門乃鳥居ハ。津の宮天
ま寺此る平はし。とうべうとや。額ハ青蓮院宮
乃わそぐせ。感神院乃三字。名物ととりけ。人
の目とうとぐむ。る器此西の大門乃ゑ。ぬむ
うひう茶屋わり。茶屋乃うハ高世郎のわぐ
ゑせとそうる人くわうとりてうゆ
南の山まそて双林る。長楽る。矢山。昊山うて。

八坂の塔は。聖徳太子の
ひとりこの塔のうへにあがり。表敬して
高野清瀧寺所と云人。わかして大業をなし
うちそこで。那智よりこの所をはじめその後
弟ようりきんみうごの作せようりて世を治ち
て妻をとりてより。延喜の比のころ。此塔弟のう
うゆうみうふうり。清瀧寺所より作せていたし
ものを。世をおさめ。やうりゆうん弟
人をもとして。奥義八とのもとをおさ
海をおこしうり。ひとりとして塔をいとりのもの
奥鈔をもひきて。のものごとく書にうりとそ。
今いくれしくのとくの人をもの。此塔りうけば

うりのうちに法をとりてそのゆゑみをあらて
こやつるもこうき清瀧寺所ゆうて作べき
ねごくのうちゆゆ。三年法をうつるのこれは
と三年はをうふ。大同二年は。清瀧寺
その四方に山法と云。大同三年は
ありうちうしみ。大同三年は
塔いを易の観音ほとうの人ありこれ
こうしゆとゆうこうこうむすび。京童いはうこい伝
なり

塔をうちたる所て徳書堂とたるあり。婆堂氏右
うちんく。を易の塔よゆ。丹波うを易の地蔵
あり。三ハみ観音うて行くうすうこれ方ふ

車屋どもと馬くびめわり
次に樓門の内に左に三間塀あり。中に田村麻呂
獨しては山のよへ延清沙門よりまくぞのあり
ひろ朝とうづこしに不地。三間乃うら地といろ
八幡列乃ちの海津ういの福乃布を洗ていづ
けるをーとつかてでくこ言に引ちやを
ひて田村丸清水寺とてそのこ三間塀乃左に方
う塔あり。塔乃南に門あり。ひり物に犀とこ
さごりの行ろあるに犀門とこ。空天とこの門に入り。
田村堂とろくぐに水わり巣乃ちとこ。水清乃
さくれろ乃に巣とうとかきう。清水乃ひ言い
揚御釈迦あり。中堂ぐしろに地を様沢わり。

地いち軒文殊あり。奥乃千ほいろのひ行廊長さの
ちみのこ不地。清水山とちさい若羽山しちやす
山科乃若羽川。地ちおのれへて。流ちりてあり
所とそう
寺乃南とうれど。ちあく山移ちの
墨さしひくかちに三間ちくい大佛一言のよ
あり。豊臣の秀吉ちそのひ。金銅横市
ちと。火わて中ちあ間。清ち秀吉ちさつこ。
ちぞおくやうと三ちぞんちこ。秀吉病
乃ち傳ちこ言ちすうて。こ年中みよ言ちり。
ひちよ猪熊乃地も流こて。後世乃ねづこもめけ
て。門ちあ大二ちいかす人に見とてらをちてこ。

ものもつて八幡宮へ参詣ぐうしの物語を
口伝をうけ、切えぶで。四つまでよやうくはしくこと
とうしの。海後の利剣の十七日もありんとな
その市ゆいこ十二間わり。鳥羽俗のいろんつよう。平
大忠盛ゐ氏行ーゐ見ちく造受ず。千の歌書一千枠。
ものじゃ二十八部ごよ元わりくやう此日。遊郭えこと元
ゐうまして。京病悪保。男心安楽とこゐ人の命。
上大流中よりのぐきて。き嘱ゑ下の人。病わりに
ものぐ。一間よ中修しまわぐ。得長寿俗平愈ちゐ
なすゐ生ちり。み後日ハ俗。き〇て千の千枠とゐ
ゐきゆ遠死ち俗と彩ちゐ

南のくに。豊国大明神わり。七国豊臣秀吉公
廟ありゝ。ゆうみさ。こして。舞まつりみぐ。
こをけ。ゆ。ぱせうりめわぐ。義経し。磐上法
光の神。をもりくよりこせうて。橋門名井も
儀生こ。ゆ。社乃ゝ。ゆ。ゆ。ゆ

更物まつりなどよ。古條乃頒城町より。佐藤ゑこ
ゝりの。四条川原よ。舞姫とそ。さいをい物あ
和して。舞ゑとゞせそ。ゑいりゝ。あらゝと云頒城や。
まゝ舞墓とゝて。紙とゝす。服しつまゝも。
地ゝゝのゝみを頒城ゞも。せそれゞ。遠ハ城の喰
ゆゝ上てゝゝうゝとそれゞ。陽よハ。服地うさい
ハ男とゆゝのくゝゝもゝり。秋舞姫ゝて。袖を
吳山ゝ乳山ゝよ頒城ゝとわゞ。秋りすゞわそゞこ
まゝゝゞ歴ゝ様ゝゝ。ゝ様ゝ人ゝ。ゝ様ゝ人ゝて。通
ありゝ方ゝ。四十舞姫ハゝゞゆ上。ゝ様ゝ
古条町人ゝ。ゝりゝ。ゝゝゝゝゝゝゆゝ。
三筋町と長ゝてあり。乃洞院。四七条北中ゝ寺

まゝでゝのゝよ合せて。四朱雀乃七条よ。一摘し
てゝゝこゝゝ。頒城ハこの内ゝ。ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝ長ゝ。ゝ舞姫ゝゝ。こ
まゝゝありて。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝ。夷や古市ゝ条。大和や古条。村山み
谷ゝ。こゝ三条ゝ。ゝ数ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝ馬ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。
人のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
み津瑞ハゝのゝ。京乃ゝ条ゝゝゝゝ。
後ゝハ漢詩ゝ垂ゝ受領せ。四乃文化夷ゝゝ
ゝゝ。四条川原ゝて。福田の改法ゝ年流。

くりて。めんぐやうと頃やはり。そのくちぶりの様。
あるぐ乃ひとりぐ。いすとをくりもそ。ゆる
河内国とつりのかくり。ゆゆとぶひんた
門。くりくりて。清河りとくりけるな。
平年数と一同よ。ゆいらぶやう毒ゆ。らくさくりる
江戸ちと文門とらのくりて。左門と立り合
ゆくくかぐくき操といくくもの。ゆくゆく文
内い死くり。左内もゆくゆくりる。今いそのるどくゆ
ぐくて。操とくく。ゆ。ゆんくく受領してぐく
ゆくゆよ。ちちとくくふりのと俗乃縁ゆありて。
そ平記とくくの。その曲帝。平ゆれとも乗らと福
くくもゆ也清水ゆり

三条此大橋小橋乃うのぐくて布とくくす彩る。
小橋乃下ハ二条の通此はしより笑顔門とくり通し。
伏見くつぐく。伏見くり。る涙ゆる雑木紙つみて。
彩の料よ部ゆものぐりす
ゆくてゆくりくふ。左乃方ゆ雲形寺ゆり。ゆる
ハ毒日此は作社像此泳坂ゆり。いくくへ天智天
皇乃ぢんゆくくくて。りくゆ左良乃部ゆ
と。極武くら皇乃ぢ時。こ此ゆれゆくくれくも也。古家
名号此額ハ一遍ら人くゆ。くるゆ乗異ゆ。
作くゆ木京極家の作ゆ。ゆくくゆ。ゆる此乗異ゆ。
くゆ。松乃丸家此は彩ゆり。そ乃乗異の部ハ大光寺
乃堂真釈ゆ乃くゆ年也。堂の小ゆ涙寺ゆり。春

明神也。祠の前にまつる所の板あり。未聞ところなし。
後考也しるす
堂の南に十三堂とてあり。迷塗の十三地蔵。
さいの川原の石塔。地わりはうさうり。石ろく
ぐくさぶ。ほとけ。しかいきくいうかふ
堪る。そのりてわそびるる人形以下。ゆりくの
調度。この堂よりとうりゆうしさいの川原
よりして向しや
そ北南のうさは。和泉式部のちるあり。式部北の
八大江の雅致。母い越中守保衡が女也。後は和泉守
橘貞う妻となりて。小式部とうみうり。この中に
和泉式部とうふ。一条院の御時より上東門院北の
方

の宮仕。彰子の御方の上人北向にて。宇治殿とうる
ふ。ものをうさうて。その報ゆりる中よ。
そううく中ゆいゆうはわるけ上東門院の御乃
書写山より海うでのものは。性空上人お合給ふ。
うう形くはて向わりゆうし式部もはうて。
伊勢堂の植よりおくぶ書付けり
うふよりうう
なにうよてうさうせしうるるけり
と上人こ書成ひんじ。上東門院とうびうせり。
はりく伊勢はとわうぐ歌りをは式部八拾
遺和歌集よりもうて詠より。その横よて今
日こ世にうり

三条通堅町とゝかゆけど。門の東より矢田ちるあり。此
寺ハ山と大和国當麻乃里ゟ此ゝ矢田とゝハ不ゟ
わりきる。そのゝ開山満米と人ハ。地ごくまり
て見すつゝ。地獄ゝ乃ゆくゝはて。元せの
ゝ。ゝまうゝ。ゝはゝとなごみてゝゝ。やゝてゝ
ゝ。ゝ地獄ゝ。ゝ地獄ゝ乃
ゝ町とゝゝゝ。ゝハ話寺ゝとゝゝ。ゝハ町ゝ
ゝと張ゝ。二条氏打ゆけど。下ゝ奥ゝ
ゝ。ゝ薬神。河東乃ゝ。ゝゝ
町ゝ。ゝゝ人ゝ鷹ゝゆゝ方ゝ軟堂ゝ
訳ゝ。ゝ行寺ゝ。行因ゝ人乃

草創。なるい千よ釈迦。おのくこれ上人の作
なり。此上人言に出ゆるせ一比。わつ女房の世れた
明るもの。後一ぬんとりこうりて。ゑち帳よ
つうんといふ。上人のくさうく。死せ一人とこそ云
帳ういの世ばづゝ。浄力ハ沢を帳うめ世ば
づんとめくさつで。女房
雖ものづれうべこ世ゆうねど
るてうさ名れ初よへう郎
こゝみそうこけ
そせ一ゆふうせめ。笑義明神
ばゝわづそうれ人の。磨るゆかうれ
知恵る也。世ゝ百百遍といふ

うまうり東よ山ひ義神川系うこ一かく
ひ。至穣院の左衛門ハ高氏ハ足く森氏ハ
足ゆ。黒時村とうる。黒谷の寺れ高りふ
ゑのうり
樂行法男氏つまく。まつか堂よりて。深
宮上人の浄京ハ孔中寺。高氏ハ新黒谷と
ゑづく。初えれ山の黒谷吉水より市ゆ。これ
不ようみゆふ。朝ゆゆつ。高りとゆく。大ゆう石
うこうとうり。あつゑとゆんじ動りて浄去
法生のうひとうしゆふ。あつ時の法ゆ
樂の戸よ明られゆ一ゆ氏
いつ紫の月ゆ足ゆうん

この辛いは玉葉集よりよみ出したり。
石清水紫宸石とかくもそうの山号は紫宸山
なるべしと。金戒光明寺とは。そのうみ深宮上
人四十二戒の法門よりあらはしたるなり。
四帖の書とうづいあるは夢想よりして。こ
れ浄土宗の一心金剛の因戒
とて人々皆ぢんの大系血脈とはなるべし。
ちうもの長通大師はりうこれ後南山光
明寺にこもりくらしたる号
なり。無名。敦盛の墓不詳とかやもとそ
なるべ。なりの内よりうしかげ。
しとうひ第六人もうけ給べ。樂阿ほとづる紫

わらうて。茶屋茶菓子大坂男と呂三人行しひ
てくるか
はきしりわるさよ。中山の墓所ありこのちあ
ゑ。ゑ名ありかの大納言成親の。俊寛僧都。
あ丸ありし。さんもしかね。平判官なる。しりん
と。涙合せしわるい。
あるるい吉田神樂岳の云日吉の神おり
ます。うきしりわい。白川といふこもしり
忠仁公ゆみのうり。後うり白川の法皇。ゑ不ふ
院の法不とつるとてずもせのひさは勝寺と
ゆ。九条の塔とうあり。そこめは塔とうそ
きゆ。塔は藏の金地と。牛は法はゆそこうと

いろ〳〵せるよ和歌て。主上さぞ哀しめて。幾
ありがたのをしの人。柳よ彦べうもよ。大内記
信忠よ作せく。塔乃うつまあぐりあ。ふ入て
よいまとあるもうぐあぐりぬ。ぬてうるいく
下りてゆーみやう。命ぐりてこそ。こうあもは
くへまそまうべきあ。うそのあの
ぬやもみこずこゆーそれぐみどやしめて嗚呼
乃ものうあうてうくあ。ぬてこと。ゆくやうま
うり。ぬ乃人こあゆもいい。信忠いゆしさ忘出え
る。人此料よ高ぬうん。被分嗚呼乃ふ
ありてぬ。ぬうまもうそうぬ也うぞうあまもの。これいも
よ孫乃まうで毎乃くありもうも也

うまうり水あよ田中寺あり。会ぬうて。帰命
山そん云ま食乃市でしなうみて。地蔵共立ぬがうう
とまづうりて安置ぬり
そ乃あのうい。礼乃森内よ法門寺あうり。土
いこれ時氏健角の命ぬしあ。ぬ俗坂也。加雷
乃神の山母ぬりで湯祖神しゆます。年ごと此
六月下此十日ゆ人ちうで。ぬ毎月ちうの祇
ぐりよ。ぬうしぬ。ぬうよ三伏乃礼とはうへすり
キーいりれあり。此十日乃うちいぬやゆ。国ぬ
とうる。菊乃極とうるとうも。寛饒ぐまりうと
えうひうそうぬ。うまうりまぬ。ぬ
こ是初ハ別雷乃神也。此神乃うりハ西とう

報恩寺なり。養老よりて。競馬神とぞ。そよ。それ
て大なる神なり也
西乃方今の此社あり。一条院乃時代。此
所は疫神とぞ。つめとりて。こうづけて
疫病院ハ。あり。りゝ。がすべ。日高院之系
式部が古墳あり。定家乃方とそら寺。附南
の方此蒼波もりぐらゝ
千乃摩魔堂ハ。小野乃篁のうん足也。毎年
三月ゝ十日乃方会佛あり。惡山乃院文永年中ゝ
此輪上人とぞ。めるる
平地乃明神ハ。延暦年中ゝ
そ此後貞観年中ゝ

乃地乃大神ハ常陸桐乃内社なり。天暦年中
ゝ熊野の西方ゝ。こうりゝ。こうゝ
西ゝハ仁和寺嵯峨滝あり。嵯峨乃山ゝ石乃五輪
佛あり。帰命之とふ本食。江戸此是此大佛とつ
くり。そのつ年でゝつくりて。こうゝのゝ
つゝ。後ゝ共乃ゝ
法華堂。言雄なる
こ乃えん起ハ。京童乃ゝつくり。こ
てこうゝ。ゝるべくハ。京童此ゝを
祈りて。樂何深乃中ゝ
仰ゝ。えんもこづ
晨朝乃ゝ会佛ゝ初ゝ

ゝらしひの会佛にて。ちまみやうら。秋さくや
がんぐるとゆきよりう。樂の浦やすやう。うまぶし
いみこまりより和國行脚とうひさくり。寺に
まで山ちもやうんよりてぐらう巻こ茶とあり。
今ものりぐらは行うりう寺町よりたりまつる
て去物堂よりまうでうる。四年ぐるい志ぶ大姉此
佛作。主僕乃法俊ありり。去物堂乃まゝ成あり。
とりて内市表よりうる。
内裡のを様。四方い特永清光。法之泉乃浦や
數うてうり後りのまつり。うりうみい田舎人へう。
内侍不よで過して。ゆぐりもうまゝ地ゆりしりぐ。
この此い。新舎のけりまでい。寺此里俗い一人も門ま

いまゝ祀ず。ちうりしく方人い門より厨舎よりう
うてみや捨ほりきうてゆうと。乃年此
國祿乃後い。内侍不のが。みや銅毛よりうあるう
うすりて田舎うの様うり。町やぐうと別みて。
百年迷去日ものやうりあり。滄浪乃ものりくりい
ものの冠乃懸いたゆしりは右洲としていとそうと

あるを不ぶ年ぬすみしりの二人。おなじこと
ゝ。縄をうけ。帝釈とやつるものゝ
ゝい男ともゝ。みをぬくもえをあり。撃ぬるを
て。ゝ。ゝ。ゝ

今都のはのこつぶ町のうち也ここ生成せて現れす
御やうきこつも無し京へ都へ行さうあり。後も都でさうあり。
今都京へ来しうまやあり。日ぐれあるいひさう
ぐさうきこつ後男乃ゆーうそれば。弟〇うれば。
無行深こつへてつく男ともみしらぬこつ也
りのハ八幡ちつふ不知山ぐさ乃男うり。弟ちつ。
らづこに二里乃山孤立れども。人のうちもち来
つくも来こい名那也。うまちつふ影とみてづう
ほ井でよ。釜湯といふ素湯ちつけて。京乃人さ。
やう性乃ちこの湯へ行ぐり。八幡の明神の仏
さうり宿九日ありぬ男ぐもはしるる衰さし
うしさ者とさちふけ。老つみるはり

さうて湯さうとうりまりぬ。その名ーさ。後の
年也。さい面白くといふみナ書乃絵馬あり。
明神乃お形ろ馬湯とのうきうて面白こさ神
社也。みかの女いちふ八幡ちつ八一里ゆく此
山孤立りのうりぬ。しぐも八幡ちつ八人のうちう
ちは後さうろ。こ生成ちうあうこつ
ふ乃ちふ京ちふ。山ー湯宮上人のちふ十二間巻の
ちさ此。楼閣乃所後ゆーさます。
山ーふ。そんぜん上人とて。木食此人ゆ也ハ
生乃大佛とつくー。帰命山そんぜん乃呼通り。
つもとうさ時ぬ。大湯也八ちし人の多刈りし。
十二此年。ちふのて百日のうひぐ。念仏とうも

かで。金仏三躰とうこう。自然智とゆて。通力をもち
給ふとうこうて。ちよ山ちよ山ゆ。一丈ばかりい。金丸こうれて
ぜんこうにて。ちよ山ちよ山ゆ。一丈ばかりい。金丸こうれて
おわしまし。ゆ。ゆ。ゆ

み鳥丸の大条より。同幅堂の条橋あり。さよあの
ゑ出条通より。俵屋の辺とそ〻の東の
ら中新玉津島の祠あり
三条室町とあるより。塩竈ちかくあり。
塔の三ゆの神宮死あり。塩竈とそ〻ゑよ。四条
おてあ氏三ゆ〻。藤の森あり。その南ゆゑ。壬生
地蔵堂地
四条烏丸とあるより。九帝判官義経の
ゆ弘。左ゆ〻ものれとして名来あり。古俵条四ゑゆ
ゆ川ゆ〻しい寺の人ゆすもとい人ゆ町ゆ也
八条よさゆゆてゆとゆれゆ。ゆ祠俵ゆあのつゑよ。八条天
神ゆ大ゆ。ゆ縁起ゆしい。京幸よ弱ゑ

人家所々乃ちまつよりて。南と西てゆく。六条乃わたりまで。西本願寺の丹波海乃ほとり小のうちより一ぢ人みしまつ。これ頃城町より。世よ清水とうづく。そのうち肥前国天草一揆乃ちうとこもりけり。清水乃城いくさ。ちいさい沼おて。お一方ハ辛地まつぐまつてぐ。び頃城町乃一方ハ清水。清水とつうち。楽伊源。あちこちうち。祇どう坂男よ見ちんとや。ちうり行てり。その人にハ京よむうひて。ぶ乃ちてよ。あちこうと。三方ハ山。ゆりごめうて。坪乃外ハ城うり。物門まゆ乃ハ。前こうと。わよむうひ。二町ゆりれ大坂より。三条西衣紋乃馬場とうづく。ちて此筆ちよ。元乃ひうとうて。ちうんとりつちうゆへ。ぶうづ。

あちや乃乃二番ゆ。かーつ。ちうちうゆ。ちうちうゆ。とうてうす。ちり貴。おちうへ。ちうちうゆ。ぶ乃ちうちうゆ。ちりの草履乃ちゆ。まゆ。ちうの草履乃ちゆ。ちりの一ち人。ちうゆ。ちうゆ。ちうゆ

ぐらん茶屋。やき豆腐。そば百一口乃菓子あり。此町
とぐ。鳴町とゆく。新くぐらに牧場のうしをみる
てゆく。西へ。ひくく。中町よりへてこれ。海より西へ。金華
風ぐらし。茶屋。豆ぐ真剣。ひいなぐこ物人ぐ。
金銀乃きせるうりこ。池田屋ど。富士屋うり。
時く伽羅物売。侍ぐ人ぐ。とがうよ。ゆーしょ。
ちりくる不ょ。三味線乃音。うりてさすぐよ。
きしくず。遺よぐ。もいあり来ぐ。よ拝殿
よくこみ。あらこれすりひぐ。ぐろいぐ。
て。あぐ。町とゆてゆく。あれ抜乃ゆくへつ
西一軒ど。乃ゆ。海ゆ。只今あぐ。きくぐ
乃りまょ。くらきぐりすきとゆひとゆ。

ぐ人ぐまうゆ人でゆく。ぐろうげ乃このそ
海ぐ。ゆりていこ出てくれ人ぐぞ。ゆこ領
城ぐ蜂乃菓のくくよ。ぐん。くよらつくぐつ。
ひろくとくへて。門ぐ口よ。ぐ。華ゆてとぐ
くぐ。ゆ乃くゆ人とうゆ七高良火神。ゆ。自乃ぐれ
ぐ。ゆ招作ょ火所ゆ。屋敷乃ゆくぐ出ゆ。
ぎゆうよ。くぐくりうくおょとくぐはくれん
うて居ゆもゆり。ゆ来ゆくふもゆり。門へゆて
ゆく。男ぐれよゆ会。ゆ乃ぐゆりゆゆう。
ゆれ西くひ。門ぐゆ。ゆのゆまゆいくゆくぞ
ゆ。門りゆくゆくゆくゆ。延と海して高ゆくら
へもゆり。ゆのゆぐ門口ゆ行て。雨ゆらゆゆゆ。

つえはなれ。乃の字とうてあらもあり。さ
かの新やきの二ぐんあいさぐるわぎやよりて。
大まぐさ日比去新宮もあり。ぜんぜ。ぜんぜ。ぜんぜ。
宮とやうもうくんぜ。さ敷元ぢうく老宗
とうて。に祝乃かうあり。青尾ちうし
てうしのう時もあり。うあわ。おちづみて。
ちうしてありうを伝。さ渡乃夏雲乃日新よ
うあれ。陪示比蕃瀬乃宮ようふ。ちうんし。
かのまぶ夏乃はうあ。ぬ。毛ーいてうん
で新金ちうり。面ぐてうしうして医とはぐ
をあり。元氣比くるを合よ。ち質とそう。迷像
して。いうういすうもあり。遠よわもやうく

うしてかて元貝とうう。ひうひとりひて。ぬぐ
ぬりすぬ。さ敷元い陪ぬ伝ぬ。ぬ。ぬ。

今いうて。深くこびりつかの。儀蔵と言。桐口
の脱指とうらく。拔ぬと勝まう。ちりぢりに
摩騎とめぐて。庵切草履ぐしてくれ。
門まち。町中とぬまうもわり。手ぶるの異い。
ら下ぬまちうすい。新よりうとい動者せる。
猪ぬい盗へうり。言にくりい。ゆやうぬこと。
他国うきりて。猪へて迷くうせみい。虐殺とう
つぐして。これとうせぐんして。軽移大風なあんじ。
けりさ事成のして。蔭毒ぐらい美てい。筋ぐれ
賢ぐして。いぐうりつ。ぐうぬんがうよりて。
ぬぐさうきへとぬ〇をぬり。てきい蔭ぬくれ
鍋城ぐうしりぬ也ぐうぬ拔ぬ。

いぐ拔ぐ人ぬぐう。今いうぐうぐうぬ。
の紋ぬぐぐり。ぐみ中ぬ。桐乃紋ぐ八千
世ぐぬ。路東一番乃ぐ桐乃紋ぐ八千
めぐ屋乃ぬ鉢屋とぬ。ぐ乃紋つぐぐ乃
きんぐぐの。ぐの中ぬ中ぬ。ぐぬ
ぐりぬ。勝ぬぐう。ぐぬ中ぬ。ぐぬ
とぐす。ぐの中ぬ物ぬ。ぐ乃附ぬ宝乃紐冊行成ぬ
胡録乃きれう表具とぐ。虚堂の假名文。元隼の
ぐぐぐ中。ぐぬぐぬぐぬぐぬぐぬぐぬ。
ぐぐ原。毛物ぐぐ乃。ぐぐ平ぬぐれ。伊藤貝寸。
中ぬ乃ぐ乃。ぐ別陸奥ぐぬ。ぐ毛合せぬ。黒乃角。牛ぬ
玉。ぐ袁の毛ぐて拔ぬ。ぐ多ぬ。ぐぬ分淫せぬ新ぬ

かきのづくりきたる異なる也。法光堂等や乃金高
蒔茶椀。漆器に成茶入
俗名。地ちりやうきく炭ハ泄田之の流とんゆく
づりはとさこうとしいて。下の図とめらづれいこるひ
歌じ法の。今蒔茶茶器。ことをり。茶よ生さるむ
ふも。ハ世ようあもとしとも芸しず。くて茶ふ
を様ニあやうしりそれ。筍乃こくるよ。懐
乃やくうわとりそしら。茶へとめづしして。ゆ
まりあ。沼路ハ集。あるる地でいかるをくり。森いて
井。ら文字。卿日。奥乃山ちやらんやしし。兎ハ茶と。
浪ハ。ふ行ふる。人今生ものこひ。ちんもの廃乃ら之
ふりれ。呂天人ハ茶乃陽よ。合ふ。ふ。ハ。て。茶

茶乃二ちんよい。茶ふれ。ものちまハ仕と
つりて。茶を蒔る。摺後ハ。ふ。つ。引ちべて。
こ。生ふ。ちる。今蒔茶ふて茶の陽ふれ。ハ。こ生
と。ちる。て。深つ生ちべ。唐後ハ。ふ。と
て。茶の陽ニわれべ。ハ。めべて。ちまこ。海ふ。ふ。
白ハ神呂ひ。ふ。る。歌く。ちる。まづく。ちる。ひ。
茶家ふ。ものハ。ふ。べ。ハ。ものハ。ひて。つ。
ど。ハ。れ。茶の陽ハ賢人ハ。ハ。乃。ハ。ハ。ハ。
て。蒔乃こ生ふ。ふ。ちべ。男性の心地ハ
きくる。盧金いふ。て。皓魚の。と。
蒔。ひ。ふ。ふ。今蒔乃自隆ニ陽世界ハ。
三代乃礼ちべる。仲とめふ。禮記の教ちべく

茶は陽はそぐ茶はりこぼ物をもろうへいのこうしいしょ。
かの二番ゑ茶。ゑうが茶わりて。今会盃宴はのうう
も。教寺屋。かうひの茶の湯。気づそりせ。対敷は
てゆうくこ。寝方ぐ。はんどやをぐつひらし。客礼講
は亜申とつう。膝ともしそぐ。みそうひ也。ともく
如と奏ろ肆よつう。笑ゑ濃じて。礼と客くす。
そうぐみならくう人間の茶ともかす。位づそて
はとゆりこれ呂尚なわせて茶香屋うう。礼
おまるゑ迫ろ人欲。仰ろのうとこ。ゑひ。暗
絵ろ礼いみぐれて。天真独郎は性理は西ふ。釈の
間と西ひ。妻ろくはうう。内ろ方屋とはろう
て。ゆけおてゆさ。かうはれうくもしす。

ううげふいつひかぐ。ふうりかるぐうさと。ん
わろ人い骨とひうあ。つうそうぐ主屋つうせう頃城
ろ礼はいうんとうろ。釈ゑゆづ。ゆ。貴ゑみを
骨とうぐ。ぐ。うひの茶の真実と主ゑゆさ
うひ。茶の湯ろ礼とぐ人つうそで。ろ法忠孝の
ろ屋りぐこうん欲しつで。うを屋ろつく。楽
ゆ所ろも。食根ゆろくのうせうがいやでいわる
ゆいころ面ろさハ。ゆふ碧ゆろん。今は作せさ
ゑ食の新食。ゆ安ろ賢ゑぐりぐや。ろのゆゆい
うゑ山しからこうろで。楽ゆ保ぐよりやゆい
ん。うゑくとつのてゆうゑ

うせより門とかして所をとりてゆく。多賀郡の宮
ゆきうしでうり。しゝ手相国法威入道いと大熱病強
うまへ。ぜうと沸せて浸りをへ。死こうしてうり。城
ゆ吳多うり。それ乃比うもびまうとうづりけうして。
人くこれ所ひ。沸て飲ゆ病つるようる
石ゐ。信つ乃内寺。信ちうる乃伝娘のこうりのひ
けの不也。大通寺と号す
東寺いたゝへ。大内裏乃内の鴨脚館也。信濃の天皇此所
ゆゆ。西鴨脚と。守敏信弟よ法ゆうて知るとゆせうど。
強設て守敏乃塚のこ。ひとうして寺柴ようこれて法まう。
東鴨脚と宮仕信弟よ法ゆうて知るとうづく。今よ
ゆうへて。白毫検校乃信濃ゆ。東寺長者いたゝへの

楽所ふしもう。こゝ乃ゆ伏見とかして。そうり
の人。弟也ゆ。そうゆ。そこ。て京寺の雑
うへの人。こうゆ。うり所よりの人いたの方し。憲塚こ
うゆ。うゆ碑乃文い。羅漢氏乃書し不也。その
振源いこる雑乃文をこ人。のうみと家者盛遠こ
ゆ。ゆ。衣川の女源乃宿と。いふゆ。妻よ。ゆ家して。姉ゆ。その娘い
信うゆ。ゆ。一月足うこうゆ。ゆうこ。ゆ乃
りひて。その高ゆ。男乃ゆとうして。れ
うりゆ。ゆ。て。ゆ乃前ゆ。ゆうゆみて。ゆこ
城南寺い鳥羽乃離宮也。ゆ塚也
ゆ。ゆ羽とうこ。ゆ侯爵よりこ。

この村うの。空うの西うの方の。伏見の方と云所の
つうの。鶴の。形の大きなる。みさゝぎの。
墓不しの。大きなる。そうまつの。ひの。
ひのて。地より高て。注ぐうの。也。みの山の。城ぐうも。
塩ぐ火として。光也。筑前の町より。方の。
竹田迄。うの。ひ。ぐうの。ぐうの。
ぐうの。ぐうの。墨染の。橋と。
後橋より。ぐうの。ぐうの。
て。ぐうの。ぐうの。
ぐうの。ぐうの。
ぐうの。ぐうの。

生まれしく。男は市と成て伏見より別当坊を
乃て此千寛は一夜にして此三島と見て
乃ち。捜神記乃多の次くに引て後に
高人。酒飯多まりて。同氏所もて書くべし。
うそく樂阿除仮佛と。仏えうてあり也
聖人。新乃月乃らずりもらず

此名所記右両人作也

東記古堂伝
彩忠
主記本やシ
清水道清

乙酉歳、尚仏に云ふ

[illegible]

[illegible]